

■安部磯雄 キリスト教社会主義者。社会運動の先駆者で社会主義の啓蒙家で、学生野球の振興にも尽くした。

あべいそお

薩摩藩士密航1865＝ 福岡の新大工町で、馬廻役の藩士岡本権之丞の次男に生まれる。母はイソ。

明治維新・・・1868＝ 3歳： 父が各種の武芸に練達し、柔道では免許を得て、自宅に道場を持っていたことから、

廃藩置県・・・1871＝ 6歳： この頃から、道場に出て柔道の型を習う。

明治6年政変 1873＝ 8歳：  
佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：

義兄が在学していた関係で勧められ、

琉球処分・・・1879＝14歳： 京都の同志社に入学、  
・・・1880＝15歳： 寄宿舎に入って本格的な同志社生活に入り、初めてパイプを購入直後、不治の病と聞かされていた瘍に罹ったことを契機としてキリスト教信者となり、

明治14年政変1881＝16歳：  
新体詩抄・・・1882＝17歳： 新島襄より洗礼を受ける。

岩倉具視没・・・1883＝18歳：  
秩父事件・・・1884＝19歳： 卒業。神学部に進むも同盟退学、  
内閣発足・・・1885＝20歳： キリスト教系の英学塾や香春学校教員を経て、  
帝国大学始・・・1886＝21歳： 母校同志社の教壇に立った後、  
国民之友始・・・1887＝22歳： 岡山で牧師となり、布教しつつ岡山英語学校の教員となった。  
帝国憲法発布1889＝24歳：

やがて社会問題解決への理論的学習の必要を痛感、  
退職して、渡米し、ハートフォード神学校に留学、

足尾鉍毒始・・・1891＝26歳：  
大本教・・・1892＝27歳：

留学中に、近代的スポーツを実見し、庭球では有力な部員となるなど熱中する。  
卒業後、ベルリン大学にも学んで、

日清戦争始・・・1894＝29歳： 帰国。  
日清戦争終・・・1895＝30歳： 岡山の私立関西中学校教諭を経て、  
八幡製鉄始・・・1897＝32歳： 母校同志社の尋常中学校教頭となる。かたわらユニテリアン教会に所属し、キリスト教的人道主義の立場から社会・労働運動に貢献した。労働組合期成会に関係したあと、

子規句歌革新1898＝33歳： \*片山潜・幸徳秋水らと社会主義研究会を組織し、会長。宣教師と意見が衝突して同志社を辞め、  
Bushidou・・・1899＝34歳： 東京専門学校講師に就任。以後、雑多の学科を担当し、要職に就かずも、学校の看板として優遇される。  
ビアノ国産化・・・1900＝35歳： 社会主義協会に発展させて、その会長となり、

田中正造直訴1901＝36歳： 社会民主党の結成にも尽力、その宣言書を起草した。「社会問題解釈法」。  
創立して部長となり、一高・慶応・学習院の対抗戦に勝ったらアメリカに連れて行く約束、  
教科書疑獄・・・1902＝37歳： この年、東京専門学校が早稲田大学となる。高等予科科長。早大雄弁会が発足し、会長に就任。

日露戦争始・・・1904＝39歳： 日露戦争には非戦論に同調して週刊「平民新聞」を援助したが、幸徳や塚利彦らとは立場を異にし、  
日露戦争終・・・1905＝40歳： キリスト教社会主義の啓蒙のために石川三四郎らと「新紀元」を発刊する一方、前年に優勝を達成した野球部員を引率してアメリカに遠征した。

韓国反日暴動1907＝42歳： 創刊された日刊「平民新聞」を外務から支援。野球部長を退任。

韓国併合・・・1910＝45歳： 再び野球部長になる。大逆事件を契機に、社会主義の実践活動から離れ、  
大逆事件判決1911＝46歳： \*早大に初めて教授職が設置され、教授となる。嘉納治五郎らと大日本体育協会を創設、  
明治天皇没・・・1912＝47歳：

熱心な産児制限論者であり、(廓清会)副会長になるなど、廃娼運動にも永年携わった。

第一次大戦始1914＝49歳： 「土地国有論」、  
21ヶ条要求・・・1915＝50歳： 高等予科科長。発足した競走部の部長を兼任、

ロシア革命・・・1917＝52歳： 早大理事。

ベルリン条約・・・1919＝54歳： 政経科長。

原敬首相暗殺1921＝56歳： アメリカに出張。

護憲三派圧勝1924＝59歳： 日本フェビアン協会を結成、会長を務めて、社会民主主義の宣伝を行い、

治安維持法・・・1925＝60歳： 農民労働党(即日禁止)の顧問となるも、まもなく脱退、

円本時代始・・・1926＝61歳： \*吉野作造らと右翼無産政党社会民衆党の結成にかかわり、委員長に就任。専念すべく早大辞任を決意、

金融恐慌・・・1927＝62歳： 同僚の大山郁夫が留任を図って追放され、〈大山事件〉に発展するのを横目に、30年近く、講義以上に様々な校務に携わってきた早大を退職(野球部長もこの時まで続けていた)、  
共産党事件・・・1928＝63歳： 第一回普通選挙で東京二区から立候補し、最高点で当選。以後当選4回。

海軍軍縮条約1930＝65歳： 東京六大学野球連盟会長、

満州事変・・・1931＝66歳：  
五一五事件・・・1932＝67歳： 社会民衆党の分裂に際して、社会大衆党の委員長に就任した。

日中戦争始・・・1937＝72歳：

大政翼賛会・・・1940＝75歳： 斎藤隆夫除名問題で社会大衆党を離党した。

日米開戦・・・1941＝76歳：

敗戦・・・1945＝80歳： 敗戦後は社会党の顧問ともなった。

新憲法公布・・・1946＝81歳：

新憲法施行・・・1947＝82歳： \*日本学生野球協会会長も務めるなど近代スポーツ導入に役割を果たして、

三大事件・・・1949＝84歳： 没した。

佐藤能丸「異彩の学者山脈」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,